

令和 8 年度（令和 7 年度対象）

当別町教育委員会 点検・評価報告書

令和 8 年 8 月
当別町教育委員会

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、令和7年度の教育委員会の権限に属する事務の管理と執行の状況について、学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、作成・公表するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

－ 目 次 －

第 1 章	点検及び評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	3 頁
第 2 章	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・	4 頁
2	教育委員会会議以外の主な活動状況・・・・・・・・	8 頁
第 3 章	当別町教育推進計画重点的取組の点検及び評価	
1	令和 7 年度の重点的取組・・・・・・・・	9 頁
2	令和 7 年度当別町教育推進計画・・・・・・・・	9 頁
3	令和 7 年度の点検及び評価・・・・・・・・	10 頁

第1章 点検及び評価の概要

1 点検及び評価の対象

教育委員会の事業は年度単位で執行されているため、点検及び評価は次年度に行うこととしています。

本年度の点検及び評価の対象は、原則として「令和7年度当別町教育推進計画」の重点的取組に位置付けられた施策から選定しました。

2 点検及び評価の内容

教育委員会会議の開催状況、審議案件など教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、当別町教育予算の概要の重点施策に位置付けされた施策・事業等の点検及び評価については、個別に取組状況を点検し、成果と課題を踏まえ今後の方向性を明らかにしています。

3 学識経験者の知見の活用

教育委員会の活動状況や施策・事業等の点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に反映させるため、教育に関し学識経験を有する2名から点検及び評価に関する意見をいただきました。

《学識経験者（敬称略）》

浜上 尚也（北海道医療大学教授）

寺田 郷子（元当別町教育委員会委員）

4 点検及び評価の公表

点検及び評価の結果をまとめた報告書を当別町議会に提出するとともに、町民に広く公表します。

第2章 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び当別町教育委員会会議規則（以下「会議規則」という。）に基づき、教育長と4人の教育委員が主要な教育施策の策定、変更及び実施に関すること、教育委員会規則等の制定並びに教育に関する様々な課題について審議しています。

会議においては、事務局から付議案件の提案や報告事項等について説明が行われた後、教育長と教育委員による慎重な審議を経て、決定、了解又は承認します。

さらに、会議以外においては、現場の状況を把握するため、学校及び教育関係施設の視察並びに各種行事の参観を実施します。

今後においても複雑、多様化する教育を取り巻く諸課題に対応するため、町民の積極的な参画と協働の下、引き続き慎重な審議を重ね、質の高い教育行政を推進していく必要があります。

(1) 会議の開催状況

会議については、会議規則第4条第1項の規定に基づき定例会を、また、同条第2項の規定に基づき必要に応じて臨時会を開催しています。

《令和7年度の会議開催実績》

- ① 定例会 12回
- ② 臨時会 1回

(2) 会議の審議案件

教育委員会会議での審議案件については、当別町教育委員会事務委任規則第1条の規定に基づき審議しています。

また、事務局報告事項についても適宜、質疑応答を行っています。

《令和7年度の審議等の実績》

- ① 当別町教育委員会事務委任規則第1条に基づく審議案件
 - ・ 報告案件 14件
 - ・ 議決案件 26件
 - ・ 協議案件 13件
- ② 事務局報告事項 22件

(3) 審議案件一覧

日 程	審 議 案 件
R7. 4. 23	(報 告) ● 臨時代理の報告について（当別町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則制定について） ● 臨時代理の報告について（教育委員会事務局職員の人事異動について） ● 臨時代理の報告について（当別町社会教育委員会委員の解嘱について） ● 臨時代理の報告について（当別町学校給食センター運営委員の解嘱について） ● 臨時代理の報告について（当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の解嘱について） (議 案) ● 当別町社会教育委員会委員の委嘱について ● 当別町学校給食センター運営委員の委嘱について ● 当別町立とうべつ学園区域学校運営協議会委員の委嘱について ● 当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の委嘱について ● 第1地区教科用図書採択教育委員会協議会委員の選任について
R7. 5. 28	(報 告) ● 臨時代理の報告について（当別町教育支援委員会委員の委嘱について） (協 議) ● 令和6年度3月補正予算について ● 令和7年度5月補正予算について ● 当別町総合体育館移動式バスケットゴール購入契約について ● 令和7年度6月補正予算について
R7. 6. 25	(協 議) ● 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
R7. 7. 22	(報 告) ● 臨時代理の報告について（教育委員会事務局職員の人事異動について） (議 案) ● 当別町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について (協 議) ● 令和7年度8月補正予算について ● 学習者用コンピュータ等購入契約について
R7. 8. 27	(報 告) ● 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について (議 案) ● 令和8年度に使用する小学校用及び義務教育学校前期課程用教科用図書の採択について ● 令和8年度に使用する中学校用及び義務教育学校後期課程用教科用図書の採

	択について ● 令和８年度に使用する小学校、中学校及び義務教育学校特別支援学級用教科用図書の採択について (協 議) ● 令和７年度９月補正予算について
R7. 9. 24	(報 告) ● 教育委員会教育長の任命について ● 教育委員会委員の任命について
R7. 10. 22	(報 告) ● 臨時代理の報告について（教育委員会事務局職員の人事異動について） ● 令和７年度全国学力・学習状況調査報告書の作成について (議 案) ● 当別町立学校管理規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町教育委員会の教育長職務代理者に関する規則制定について
R7. 11. 27	(協 議) ● 令和７年度１２月補正予算について
R7. 12. 17	(議 案) ● 当別町文化財調査審議会委員の委嘱について ● 当別町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
R8. 1. 14	(議 案) ● 令和７年度教育委員会表彰の被表彰者の選考及び決定について (協 議) ● 令和８年度当別町教育推進計画（案）について
R8. 2. 19	(報 告) ● 臨時代理の報告について（教職員の懲戒処分について） (議 案) ● 教職員の人事異動内申について ● 当別町部活動地域展開推進計画（案）について
R8. 2. 27	(議 案) ● 教職員の人事異動内申について ● 当別町立学校管理規則の一部を改正する規則制定について ● 令和８年度当別町教育推進計画（案）について (協 議) ● 令和７年度３月補正予算について ● 令和８年度教育行政執行方針について ● 令和８年度当初予算について
R8. 3. 25	(報 告) ● 令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書の作成について (議 案) ● 当別町社会教育施設設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規

	則制定について ● 当別町総合体育館設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町コミュニティーセンター設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について ● とうべつ学園水泳プール管理及び運営に関する条例施行規則の一部を改正する規則制定について ● 運動競技又は文化活動に参加する中学生に係る大会派遣補助金交付要綱の一部を改正する訓令制定について ● 当別町教職員住宅管理規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則制定について
--	---

2 教育委員会会議以外の主な活動状況

令和7年度の主な活動状況については、下記のとおりです。

	開催日	会議名等
会議等	令和7年 4月 8日	石狩管内市町村教育委員会教育長会議
	令和7年 4月24日	石狩管内教育委員会協議会総会及び教育長会
	令和7年 9月19日	緊急不祥事防止対策会議（オンライン）
	令和7年11月21日	石狩管内学校における働き方改革推進会議（オンライン）
	令和7年12月22日	石狩管内教育連絡調整会議
	令和8年 3月27日	第1回石狩教育研修センター組合臨時教育委員会会議
研修等	令和7年 6月12日	こども性暴力防止法に関する説明会（オンライン）
	令和7年 7月17日	第60回北海道市町村教育委員研修会
	令和7年 9月26日	教育委員会視察研修会（中川町） ・部活動の地域展開にかかる取り組み ・学校・社会教育施設視察 等
	令和7年10月15日	北海道町村教育委員会連合会教育長部会研修会
	令和7年10月28日	石狩管内教育委員会委員研修会（新篠津村開催）
行事	令和7年 4月 7日	とうべつ学園・西当別小学校・西当別中学校入学式
	令和7年 5月23日	西当別中学校 第63回体育大会
	令和7年 5月24日	とうべつ学園 第4回スポーツフェスティバル
	令和7年 5月31日	西当別小学校 第75回運動会
	令和7年 6月23日	姉妹校交流（岩出山小学校6年生 4名来町） とうべつ未来学講座（キャリア教育授業：R i h w a氏）
	令和7年10月 3日	とうべつ学園（5～9年生） 第4回学園祭 西当別中学校 第62回西中祭
	令和7年10月19日	当別スウェーデンマラソン2025
	令和7年10月25日	西当別小学校 第74回学芸発表会
	令和7年11月29日	とうべつ学園（1～6年生） 第4回学習発表会
	令和7年12月 9日	当別町文化公演事業（「TOBETSUプレミアムコンサート」）
	令和8年 1月11日	令和8年 当別町はたちのつどい
	令和8年 2月 7日	令和7年度 当別町少年の意見発表会
	令和8年 2月14日	令和7年度 当別町教育委員会表彰式
	令和8年 3月13日	とうべつ学園 第4回卒業証書授与式 西当別中学校 第79回卒業証書授与式 当別地域クラブ設立
	令和8年 3月19日	西当別小学校 第75回卒業証書授与式

第3章 当別町教育推進計画重点的取組の点検及び評価

1 令和7年度の重点的取組

分野	重点的取組	頁
学習指導	主体的・対話的で深い学びによる授業改革の推進（授業改革055）	10
生徒指導	いじめの未然防止、不登校支援の充実自己肯定感・自己有用感の育成	14
地域と共にある学校	地域一体となった特色ある学校づくりの推進	17

2 令和7年度当別町教育推進計画

令和7年度 当別町教育推進計画  「未来を拓く9年間」当別町小中一貫教育			
 令和7年度 重点目標 一人ひとりの学力向上と子どもの未来保障			
	学習指導	生徒指導	地域と共にある学校
重点課題	主体的・対話的で深い学びによる授業改革の推進（授業改革055）	いじめの未然防止、不登校支援の充実自己肯定感・自己有用感の育成	地域一体となった特色ある学校づくりの推進
学 校	☐ AIドリル、ICT機器の利活用 ☐ 子どもの自己選択・自己決定の場の充実 ☐ 対話を重視した授業づくり ☐ とつべつ未来学を活用した探究活動の充実 ☐ すべての学級で一人一台端末を活用した多様な学び ☐ 家庭学習の拡充・習慣化	☐ 心のコーディネーターとの連携による組織対応 ☐ 全ての生徒の発達を支える生徒指導 ☐ 支援を要する児童生徒の早期発見と対応 ☐ 子どもの居場所となるからふる等の有効活用 ☐ 家庭や地域、関係機関との連携	☐ 体力向上に向けた家庭・地域との連携・協力 ☐ 部活動地域展開への準備・家庭への周知 ☐ CS等の機能を生かした地域と連携・協働 ☐ 未来学における人材・地域資源の活用 ☐ 姉妹校との交流
委員会	☐ AIドリル活用促進 ☐ 感性を育てる教育の充実 ☐ とつべつ未来学の事業推進 ☐ 各種研修による教職員のスキルアップ支援の充実 ☐ ICT支援員との情報共有によるICT活用の促進 ☐ 一人一台端末の更新準備	☐ 学校・家庭・関係機関等をつなぐ心のコーディネーターの派遣 ☐ メタバースによる不登校支援の強化 ☐ WebQUの結果データの活用の促進 ☐ 校内と校外の教育支援センターの巡回による人的支援 ☐ 児童生徒に寄り添う当別型複数指導体制の充実	☐ 地域と連携した体力向上の促進 ☐ 部活動地域展開の推進 ☐ CS等の機能の更なる充実 ☐ とつべつランチを活用した食育の推進 ☐ 学習会やプログラミング教室等の多様な学びの提供

3 令和7年度の点検及び評価

担当課 学校教育課

点検項目	『学習指導』	
重点課題	主体的・対話的で深い学びによる授業改革の推進(授業改革055)	
課題へのアプローチ	学 校	教育委員会
	☐ A I ドリル、I C T機器の利活用 ☐ 子どもの自己選択・自己決定の場の充実 ☐ 対話を重視した授業づくり ☐ とうべつ未来学を活用した探究活動の充実 ☐ すべての学級で一人一台端末を活用した多様な学び ☐ 家庭学習の拡充・習慣化	☐ A I ドリル活用促進 ☐ 感性を育てる教育の充実 ☐ とうべつ未来学の事業推進 ☐ 各種研修による教職員のスキルアップ支援の充実 ☐ I C T支援員との情報共有による I C T活用の促進 ☐ 一人一台端末の更新準備
具体的取組	(1) A I ドリル、I C T機器の利活用 ・ A I ドリルは、理解度に応じた個別最適な学びをサポートできる教材であり、授業や家庭学習、長期休業中の課題などで活用促進を図った。 ・ 電子黒板は、大画面での表示と書き込みができる I C T機器で、授業をはじめプレゼンテーションなど様々な場面で活用できた。 (2) 子どもの自己選択・自己決定の場の充実 ・ 総合的な学習の時間や学校行事などにおいて、子ども自らの興味関心に基づいたテーマ設定や、情報収集方法、表現方法など子ども自身が選択・決定し、実行する機会の充実に取り組んだ。 (3) 対話を重視した授業づくり ・ 各学校で、授業における対話活動を研究テーマに取り入れ、協働的な学びの実現に取り組んだ。 ・ 「全国学力・学習状況調査」では、令和7年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか」の設問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、小学校・中学校ともに全国平均を上回った。 また、学校質問紙調査で「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」の設問に、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と小学校・中学校ともにすべての学校が回答し、対話を重視した授業づくりが進んでいることが伺える結果となった。	

- (4) とうべつ未来学を活用した探究活動の充実
- ・各校の実態に沿って、ふるさと当別を知り、とうべつの未来について考える教科横断的な学習を推進した。また、各学校の学校祭等において、探究学習の成果を発表した。
- 【主な実施内容】
- ・稲作体験（小学校3年生）
 - ・大豆生産体験（小学校4年生）
 - ・とうべつ未来学講座（町出身シンガーソングライターR i h w a氏によるキャリア教育授業、小学校5年生以上）
 - ・スウェーデン交流センター訪問（小学校5年生）
 - ・J I C A出前授業（小学校6年生、中学校1年生）
 - ・当別町についての調べ学習、フィールドワーク、発表（中学校1～3年生）
 - ・町内事業所での職業体験学習（中学校2年生）
- (5) すべての学級で一人一台端末を活用した多様な学び
- ・始業前に学習者用端末の活用スキル向上のための時間を設定するなど、日常的に活用するための取組を実施した。
 - ・各教科の授業のみではなく、修学旅行等の自主研修のまとめや委員会活動の場面でも学習者用端末の活用を進めた。
 - ・「全国学力・学習状況調査」では、令和7年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか」の設問に、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した児童生徒の割合が、小学校・中学校ともに全国平均を上回った。
- また、学校質問紙調査で、「児童生徒一人一人に配備されたP C・タブレットなどのI C T機器を、授業でどの程度活用しましたか」の設問に、「ほぼ毎日」「週3回以上」と小学校・中学校ともにすべての学校が回答し、I C Tの日常活用が進んでいることが伺える結果となった。
- (6) 家庭学習の拡充・習慣化
- ・各学校で学習者用端末の持ち帰り（平日週3日以上、休日、長期休業中）を実施し、家庭学習でA Iドリルなどに取り組んだ。
 - ・「全国学力・学習状況調査」では、令和7年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問に「1時間以上」と回答した児童生徒の割合が、中学校では前年度を上回った。
- (7) A Iドリル活用促進
- ・会議で利用目的や数値目標を繰り返し周知し、積極的な利用を行うよう働きかけを行った。A Iドリルの機能を最大限に活かし、多様な場面で効果的な活

	用を促進した。 (8) 感性を育てる教育の充実 ・「とうべつ未来学」において、地域資源を活用した多様な教育活動を実施し、子どもたちの感性を育てることに取り組んだ。 (9) とうべつ未来学の事業推進 ・とうべつ未来学講座では、キャリア教育として、社会で活躍する方から仕事を志すきっかけや、自分の夢を叶えるために努力したことなどについて講演を実施し、児童生徒にとって将来を考える上で貴重な機会となった。 (10) 各種研修による教職員のスキルアップ支援の充実 ・学校の長期休業中等に、今日的な教育課題をテーマとした町教委主催研修を開催した。受講しやすいよう集合形式とオンデマンド形式を用意し、教職員の資質向上を図った。 【研修内容】 ・「当別町歴史講座」 ・「田中ビネー知能検査実技演習」 ・「児童生徒の体力づくり」 ・「不登校児童生徒への対応」 ・「ＩＣＴを活用した授業改善」 ・「子どもたちとの関わり方で大切なこと」 (11) ＩＣＴ支援員との情報共有によるＩＣＴ活用の促進 ・各学校において、ＩＣＴを活用した授業の支援、教職員へのＩＣＴ機器の活用方法の指導や、ＩＣＴ機器等の不具合対応、管理等の支援を実施した。 (12) 一人一台端末の更新準備 ・北海道の共同調達によって効率化を図りながら、計画的に更新準備を進め、円滑に児童生徒及び教職員が使用する学習者用端末の更新を完了した。
達成状況	達成に向けて進展があった。
課題と今後の対応方法	・各学校における授業改善を進めるため、ＩＣＴ機器の活用促進や子どもの自主性を育む機会の充実など、引き続き指導助言に取り組む一方、ＩＣＴ機器の活用に偏重しすぎることなく、従来の紙媒体など多様な教育ツールを併用させ、個別最適な学びの充実を図る。 ・対話を重視した授業づくりに向けて教員対象の研修を実施し、その教育的意義の理解促進に取り組む。 ・とうべつ未来学については、関連予算の確保、学習テーマの掘り起こしなど、授業実施に向けた学校への支援を継続する。

	・家庭学習習慣を定着させるよう、引き続き家庭への啓発に取り組む。 ・一人一台端末の家庭での有効な活用を推進する。
外部評価者の意見	・ＩＣＴ機器やＡＩドリルの活用をはじめ、自己選択・自己決定の機会の充実、対話を重視した授業、とうべつ未来学を核とした探究活動、家庭学習、教職員研修等、児童生徒の主体的・対話的な学びを支える取組が総合的かつ着実に進められている。特に、全国学力・学習状況調査において、ＩＣＴの活用状況や対話を通じた学びに関する肯定的な回答が全国平均を上回り、すべての学校でＩＣＴの日常的な活用が進んでいることは、取組の成果として評価できる。また、地域の人材や資源を生かした「とうべつ未来学」は、当別町の特色を生かした探究・キャリア教育として意義が大きい。 ・今後は、ＩＣＴやＡＩドリルの活用頻度だけでなく、それらが児童生徒の学習意欲や思考力・表現力、学力の向上にどのようにつながっているかを検証し、活用の質をさらに高めることを期待したい。あわせて、自己選択・自己決定や探究的な学びを日常の授業にも広げ、児童生徒が自ら学びをつくる教育の充実を期待する。 ・学校現場においてＩＣＴ支援員のサポートのもと、ＡＩドリル等の利活用が円滑に進んでいること、また端末更新が滞りなく完了した点を高く評価する。 ・児童・生徒が携行する教科書等の重量による身体的負担の軽減に向けては、整備されたＩＣＴの積極的な活用を要望する。あわせて、デジタル活用と従来の紙の教科書利用のバランスについても、慎重な検討を重ねていく必要がある。

点検項目	『生徒指導』	
重点課題	いじめの未然防止、不登校支援の充実、自己肯定感・自己有用感の育成	
課題へのアプローチ	学 校	教育委員会
	☐ 心のコーディネーターとの連携による組織対応 ☐ 全ての生徒の発達を支える生徒指導 ☐ 支援を要する児童生徒の早期発見と対応 ☐ 子どもの居場所となるからふる等の有効活用 ☐ 家庭や地域、関係機関との連携	☐ 学校・家庭・関係機関等をつなぐ心のコーディネーターの派遣 ☐ メタバースによる不登校支援の強化 ☐ W e b Q Uの結果データの活用の促進 ☐ 校内と校外の教育支援センターの巡回による人的支援 ☐ 児童生徒に寄り添う当別型複数指導体制の充実
具体的取組	(1) 心のコーディネーターとの連携による組織対応／学校・家庭・関係機関等をつなぐ心のコーディネーターの派遣 ・特別支援教育の経験が豊富な元教員を心のコーディネーターとして配置した。 ・心のコーディネーターが、週1回各学校を巡回する中で児童生徒の困り感や登校渋りを把握し、教育委員会事務局と情報共有し、スクールカウンセラー（S C）やスクールソーシャルワーカー（S S W・道派遣）とも連携して、初期対応に取り組んだ。 (2) 全ての生徒の発達を支える生徒指導 ・チームティーチングや通級指導教室など児童生徒の状況に合わせた指導を行う体制を構築した。 ・西当別小学校において、令和8年度からの通級指導教室開設に向けた準備を行った。 (3) 支援を要する児童生徒の早期発見と対応／W e b Q Uの結果データの活用の促進 ・学校において、いじめ・不登校等の対策のための委員会等を設置し、チームとして対応にあたった。令和6年度と比較して、不登校児童生徒数が減少しており、不登校対策に一定の成果が見られた。 【不登校児童生徒（年間30日以上欠席している者）数】 令和7年度 29名（令和6年度 39名） ・学校において、いじめ対策のための委員会等を設置し、チームとして対応にあたった。また、道教委が実施するいじめの把握のためのアンケート調査の結果を活用し、いじめ解消の早期対応に取り組んだ。	

【令和7年度の町立学校におけるいじめ解消率（認知からいじめ行為が止むまで3か月が経過していない事案を除く）】

令和7年度 99.5%（令和6年度 100%）

・児童生徒向け心理アンケート「WebQU」を年2回実施し、支援を要する児童生徒の把握や学級経営の改善に、アンケート結果を活用した。

(4) 子どもの居場所となる「からふる」等の有効活用

・校内教育支援センター「からふるルーム」において、教室に入ることによる不安を抱える児童生徒の学習機会の確保、教室への復帰に向けた支援に取り組んだ。

【校内教育支援センターへの通級児童生徒数（令和7年度）】

- ・とうべつ学園 6名
- ・西当別小学校 0名
- ・西当別中学校 1名

・校外教育支援センター「レインボールーム」「ツナグっとルーム」で、不登校児童生徒の学習機会の確保、学校への復帰に向けた支援に取り組んだ。

【校外教育支援センターへの通級児童生徒数（令和7年度）】

- ・レインボールーム 10名
- ・ツナグっとルーム 2名

(5) 家庭や地域、関係機関との連携

・学校や保護者、SC等からの相談を元に、校外教育支援センターへの通級を進める等の支援を行った。

・虐待やネグレクトが疑われる事案について、学校や子ども未来課、児童相談所等とケース会議を実施する等、緊密に情報共有を行いながら、問題の解決に向けて対応した。

(6) メタバースによる不登校支援の強化

・道教委事業「メタバースを活用した不登校児童生徒支援事業」に参加し、教育支援センターにつながりがない不登校児童生徒に対し、オンラインで学習支援ができる体制を構築した。

・令和7年度、町立学校から上記メタバース事業への通級人数は0名（体験通級1名）だった。

(7) 校内と校外の教育支援センターの巡回による人的支援

・各学校校内の「からふるルーム」において週1回、校外の「レインボールーム」「ツナグっとルーム」においては週各1回、校内外教育支援センターでの社会教育指導員による巡回指導を行った。

	(8) 児童生徒に寄り添う当別型複数指導体制の充実 ・学力向上推進講師や特別支援教育支援員を町独自で配置し、学級の状況に応じて複数配置することで、教員の負担軽減とともに、多様な子どもたちに寄り添った指導や支援を実施することができた。 【主な会計年度任用職員】 ・学力向上推進講師 4名 ・特別支援教育支援員 7名 ・特別支援学級介助員 2名 ・外国人児童生徒支援員 1名
達成状況	達成に向けて進展があった。
課題と今後の対応方法	・引き続き児童生徒の社会的自立を支援する。 ・児童生徒の複雑・多様化するニーズに対応する体制の構築のため、校内外の教育支援センターによる支援を継続するとともに、道教委のメタバース事業も活用する。 ・心のコーディネーターを活用し、関係機関と連携しながら、困り感を抱える児童生徒への支援を実施する。
外部評価者の意見	・心のコーディネーターを中心とした学校・家庭・関係機関の連携、Web Q U等を活用した早期発見、校内外の教育支援センターによる居場所づくり、町独自の複数指導体制など、児童生徒一人一人の状況に応じた支援体制が総合的に整備されていることを評価したい。特に、不登校児童生徒数が前年度の39名から29名に減少したことや、いじめ解消率が99.5%と高い水準を維持していることから、組織的な生徒指導の取組に一定の成果が表れている。 ・今後は、問題が生じてからの対応に加え、児童生徒の小さな変化や困り感を早期に捉えた予防的な生徒指導を一層充実させることが重要である。また、不登校児童生徒に対しては、学校復帰だけを目標とせず、教育支援センターやオンライン等も含めた多様な学びや居場所を保障し、社会とのつながりを継続できる支援の充実を期待したい。 ・現在、教育現場の人的資源に厳しい制約があり、多大な困難を伴う状況は憂慮すべき課題である。しかしながら、外国籍や複雑な家庭環境など、多様な背景をもつ児童・生徒への支援の必要性は一層高まっている。「誰一人取り残さない教育の実現」に向け、社会的自立を見据えた伴走型の支援を維持・継続していくことを強く望む。

点検項目	『地域と共にある学校』	
重点課題	地域一体となった特色ある学校づくりの推進	
課題へのアプローチ	学 校	教育委員会
	☐ 体力向上に向けた家庭・地域との連携・協力 ☐ 部活動地域展開への準備・家庭への周知 ☐ C S等の機能を生かした地域と連携・協働 ☐ 未来学における人材・地域資源の活用 ☐ 姉妹校との交流	☐ 地域と連携した体力向上の促進 ☐ 部活動地域展開の推進 ☐ C S等の機能の更なる充実 ☐ とべっこランチを活用した食育の推進 ☐ 学習会やプログラミング教室等の多様な学びの提供
具体的取組	(1) 体力向上に向けた家庭・地域との連携・協力／地域と連携した体力向上の即進 ・総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団本部と連携し、スポーツ体験教室やスポーツイベント、体力テストなどを実施し、体力向上に向けて運動する機会を創出した。 ・運動習慣定着や生活習慣改善に向け、運動・食事・休養の大切さを家庭に啓発する取組みを行った。 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、令和7年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「運動やスポーツをすることは好きですか」の設問に、「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校男女・中学校男子で全国平均を上回った。 また、「地域のスポーツクラブやスポーツ少年団等に入っていますか」の設問に、「入っている」と回答した児童の割合が、小学校男女ともに全国平均を上回った。 (2) 部活動地域展開への準備・家庭への周知／部活動地域展開の推進 ・地域おこし協力隊制度やスポーツ庁実証事業を活用し、剣道及び卓球の活動について先行実施を行い、各学校をとおして部活動地域展開について家庭への周知を行った。また、令和8年3月に地域クラブを設立し運営体制整備を進めた。 (3) C S等の機能を生かした地域と連携・協働／C S等の機能の更なる充実 ・学校運営協議会委員及び教員を対象とした研修会を開催し、町内2地区における取組み発表や、講師による講演、カフェ形式のグループワークを通じて、理解や関心を深め、今後の活動を展望する機会を作り、コミュニティ・スクール（C S）機能の充実に努めた。	

・とうべつ学園CSでは、定例会議以外で委員が自主的に集まり、学校・地域が抱える課題について熟議した。地域で増加する外国籍住民との共生について、学識経験者の協力を得て外国籍住民との交流行事を実施した。

・西当別小学校・西当別中学校CSでは、遠足行事における訪問する施設等のアイデア出しや情報提供、餅つき集会でのサポートなど、学校教育活動に対する支援を行った。

(4) 未来学における人材・地域資源の活用

・JA北いしかり青年部や当別土地改良区の協力による稲作・大豆栽培体験授業、スウェーデン交流センターの協力によるスウェーデンについて学ぶ授業など、地域人材・地域資源を活用した教育活動に取り組んだ。

(5) 姉妹校との交流

・姉妹校提携交流事業として、大崎市から姉妹校である岩出山小学校児童を迎え、町内3校児童生徒との交流事業を行った。西当別小学校・中学校は歌交流、とうべつ学園ではお互いの地域文化や学校生活についての紹介などを行い、姉妹都市への関心を高め、両市町の友情を育む機会となった。

(6) とべっこランチを活用した食育の推進

- ・給食を活用した食育の推進を図った。
- ・特別給食「とべっこランチ」を毎月1回提供した。
- ・今年度より「有機米」をはじめて提供した。
- ・「和食の日」にちなみ、「ゆとりっち芋団子汁」、「鮭のちゃんちゃん焼き」、「大豆の五目煮」（すべて和食）を提供した（11月21日）。
- ・全国学校給食週間（1月24日～30日）に合わせ、意匠を凝らした給食を提供するなど、食育の推進に努めた。
 - ・日本初の給食を再現（1月26日）
「おにぎり、豚汁、鯖の塩焼き、おひたし」
 - ・当別町学校給食30年を記念した初回時メニューの再現（1月27日）
「コッペパン、ビーフシチュー、ごぼうサラダ、フルーツヨーグルト」
- ・毎月発行の「もぐもぐだより」で食育の啓発を行った。

(7) 学習会やプログラミング教室等の多様な学びの提供

- ・放課後学習会は計111回、土曜教室は計10回、イングリッシュ・プロジェクトは計8回実施し、地域ボランティアの熱意ある学習支援のもと子ども達に学習の機会を提供した。
- ・プログラミング教室は2回実施し、プログラミングに関する興味関心を引き出し、問題解決能力、論理的思考力を養うことができた。子どもに加えて高齢者も参加対象としたことで異世代交流の機会を創出できた。

達成状況	達成に向けて着実な進展があった。
課題と今後の対応方法	・運動やスポーツをすることが好きである児童生徒は体力合計点が高い傾向にあるため、運動やスポーツの楽しさ、大切さを伝える授業づくりや家庭への啓発、運動機会の充実に努める。 ・CSについては、それぞれの学校や地域が抱える地域課題に対し、委員が主体的に考え、活動できる環境づくりに向け、研修会の充実など継続的な支援を行う。また、CSそのものの活動状況が住民に理解される発信のあり方について検討を行う。 ・学校部活動地域展開については、指導者の確保や育成、運営体制の整備など、解決すべき課題が依然として存在している。特に、持続的かつ安定的な地域クラブ活動の実現に向けては、活動経費の確保とともに地域人材の発掘や関係団体との連携強化が重要となる。このため、引き続き現状の課題を整理・分析するとともに、先行事例の調査や関係者との協議を通じて、実効性のある対応策の検討を進めていく必要がある。また、保護者や生徒を含めた地域住民への丁寧な情報提供を行い、地域展開に対する理解の促進にも努める。 ・地場産食材の数量確保が難しいため、生産者及び納品業者等、関係各所と連携し確保に努める。
外部評価者の意見	・地域の人材・資源やスポーツ団体、コミュニティ・スクール等との連携を生かし、体力向上、探究学習、食育、学習支援、プログラミング教育、姉妹校交流など、多様な学びと体験の機会を児童生徒に提供していることを評価したい。特に、学校運営協議会による熟議や学校教育活動への参画、地域ボランティアによる継続的な学習支援など、学校と地域が協働して子どもの教育を支える取組が着実に進んでいる。 ・学校部活動の地域展開においては、学校・地域の特性を生かしながら各機関が連携し進めることの意義は大きい。展開にあたっては諸問題と向き合うこともあるが、その都度方向性を確認していくことで良いと考える。 ・今後は、こうした地域とのつながりをさらに広げ、コミュニティ・スクールを核として、地域と学校がそれぞれの強みを生かしながら、子どもの学びや成長を共に支える持続可能な仕組みづくりを期待したい。特に、部活動の地域展開については、家庭・学校・地域の共通理解を図りながら、持続可能な運営体制の構築を進めることが重要である。 ・食育の面において、地元の有機米の導入など工夫を凝らした給食を提供していることは、児童・生徒の心身の健康と郷土愛を育む優れた取り組みであり高く評価する。 ・一方、教職員の負担軽減に不可欠な「部活動の地域展開」に関しては、指導者の確保や運営体制など多くの課題が山積している。持続可能な体制構築に向け、町民や関係団体の理解促進と機運醸成に、引き続き強力に取り組んでいただきたい。

	・当別町には、高いポテンシャルを持つ地域住民や、豊かな自然・文化資源がある。これらを学校教育へ呼び込むため、コミュニティ・スクールの活性化や、町独自の探究学習「未来学」のさらなる充実を期待する。 ・地域を主体的に巻き込み、当別町の魅力を盛り込んだ教育活動を展開することは、子どもたちが地域の誇りを胸に未来へ羽ばたく原動力となる。
--	---

外部評価者の総合評価	・学習指導、生徒指導、地域と学校の各分野において、児童生徒一人一人を中心に据えた教育の充実が着実に進められている。ICTを活用した個別最適な学びや対話・探究を重視した授業づくり、心のコーディネーター等を核とした組織的な生徒指導、多様な学びや居場所の確保、コミュニティ・スクールや地域人材を生かした教育活動など、学校・家庭・地域・関係機関が連携して子どもの学びと成長を支える基盤が整いつつあることを高く評価したい。 ・全国学力・学習状況調査等におけるICT活用や対話的な学びに関する肯定的な結果、不登校児童生徒数の減少、地域と連携した多様な教育活動などからも、これまでの取組の成果が一定程度表れている。 ・今後は、取組の実施状況や利用頻度だけでなく、それらが児童生徒の学力、学習意欲、自己肯定感、社会性等の育ちにどのような成果をもたらしているのかを検証し、取組の質をさらに高めることが重要である。これまで築いてきた学校・家庭・地域・関係機関のつながりを生かし、「子どもを中心に、地域全体で学びと成長を支える教育」のさらなる充実を期待したい。 ・当別町小中一貫教育「未来を拓く9年間～一人ひとりの学力向上と子どもの未来保障」の達成に向け、ハード・ソフトの両面で着実な成果を上げている。 ・教育や社会環境が急激に変化する中、現場や保護者、教育委員会、地域が一体となり、何が子どもにとっての「最適解」であるかを模索し続けることが重要である。 ・子どもたちの健やかな成長を支えるためにも、現場の負担軽減と適切な人的資源の確保は急務である。ここに挙げた諸課題の解決と、地域一丸となった教育環境の創造に向け、教育委員会のさらなる尽力を要望する。
------------	--